

区分：人文・社会科学

授業科目名	言語と芸術（文学における生と死）				学期	曜日	校時
英語名	Language and Art (Life and Death in literature)						
担当 教官名	山本建雄	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	水曜日 校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>個人の人格と生命の尊厳への関心、重要視の傾向が増す一方で、それとは全く逆行するかのような残虐かつ理解困難な事件が多発している。こうした事件は、その関係者だけではなく、私達ひとりひとりに改めて人間の生と死について本気で考えることを要求しているように思える。本授業では、その基礎作業として、日本の近現在の文学者達が、自らの生を、あるいは他者の生をどのように受けとめ、どのように生きてきたか。また、彼らは自らの死を、あるいは他者の死をどのように認識し、それにどのように対応しようとしたか、更にそれらをどう作品化したかについて、可能なかぎり具体的にあとづける。</p>							
テキスト、教材等							
教科書は用いず、授業計画にそったプリント資料を配布する。参考文献も適宜紹介する。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	定期試験、課題レポート、平素の学修成績、出席状況等を考慮して行なう。						
授業計画							
<p>第1回 授業の目的、内容、方法 第2回 生と死を巡る今日の状況 第3回 受講者各自は生と死についてどう考えるか 第4回 正岡子規における生と死 第5回 夏目漱石における生と死 第6回 森鷗外における生と死 第7回 芥川龍之介における生と死 第8回 志賀直哉における生と死 第9回 斉藤茂吉における生と死 第10回 宮沢賢治における生と死 第11回 高村光太郎における生と死 第12回 梶井基次郎における生と死 第13回 太宰治における生と死 第14回 遠藤周作における生と死 第15回 文学者の生と死から学んだもの</p>							